



大きく区分できるのではないかと考えている。そのうえでさらに複雑になっっていくが、北海道の一部や沖縄、一部の東北エリア、九州の一部、つまり、京都・奈良を「中心」にしての遠距離の同心円状には、かなり古い時代の文化の影響を強く受けた諸民族がいると思うのだ。

当然、東北全体にも、その古い時代の文化の影響がかなりあると感じている。そして、「西もん」エリアには、「朝鮮半島経由の渡来系文化」が色濃く残っていると思われる。少なくとも、「東北」には、あまり「朝鮮半島経由の渡来系文化」の影響は感じられない。

東アジア人のDNAが支配的となった。弥生人のDNAは「北東アジア系」である。しかし、「古墳時代人」のDNAは「東アジア系」であり、その範囲もかなり広く、中国北部の遊牧民系DNAもあり、中国南方系のDNAも含んでいて、東アジアのDNAが一举に日本に押し寄せたといっている変化があった。

東北はやはり「ぼんやりした」ような文化で、古墳時代のDNA変化研究はまだ始まったばかりで、今後、東北とどういう関係があるかも明らかになってくるだろうが、やはり、東北はDNA分析でくっきりとくわがむずかしいと直感する。そして、DNA分析に代わるのは、やはり「ぼんやりした」ような文化で、そこには、地理的条件、政治的条件も加わり、さらに歴史的条件も加わって、かなり複雑な関係となるだろう。

「従来の東北像」からの脱皮が必要。以上のように、多少乱暴すぎると思える「東北像」について考えてきたが、結論としては、従来の「東北像」からなるべく早く脱皮することが必要だと思っただけだ。特に、中央から押しつけられた「東北像」に、東北サイドがいつまでもこだわってはいけません。それは負け続けた「東北像」でもある。

大谷選手は、西日本だけで受け入れるには大量過ぎたのである。このDNAは往時の東北にもやってきたのだろうか？おそろくは来ていたと思われ。避難民は、西日本だけで受け入れるには大量過ぎたのである。

「東北はやはり」ぼんやりしたような文化で、古墳時代のDNA変化研究はまだ始まったばかりで、今後、東北とどういう関係があるかも明らかになってくるだろうが、やはり、東北はDNA分析でくっきりとくわがむずかしいと直感する。そして、DNA分析に代わるのは、やはり「ぼんやりした」ような文化で、そこには、地理的条件、政治的条件も加わり、さらに歴史的条件も加わって、かなり複雑な関係となるだろう。

大谷選手は、西日本だけで受け入れるには大量過ぎたのである。このDNAは往時の東北にもやってきたのだろうか？おそろくは来ていたと思われ。避難民は、西日本だけで受け入れるには大量過ぎたのである。

大谷選手は、西日本だけで受け入れるには大量過ぎたのである。このDNAは往時の東北にもやってきたのだろうか？おそろくは来ていたと思われ。避難民は、西日本だけで受け入れるには大量過ぎたのである。

# 大谷選手の打撃面での活躍はもはやモンスターレベル！

## 「打撃9部門」で両リーグTOPか、TOPタイか、リーグTOPかTOPタイ チームの同僚もあまりのすごさにあきれているかもしれない...



大谷選手 今シーズン第12号ホームラン(5/15) NHK ニュースより

NHK NEWS

十二号ホームランにもだれも驚かない

日本時間の五月十五日、サンフランシスコ・ジャイアンツ戦に「二番・指名打者」で先発出場し、今季十二号となる先制のソロ本塁打を放った。

これでリーグトップを走るオズーナ(アトランタ・ブレーブス)に再び並び、リーグタイとなった。

あと一歩で球場外の海まで飛び込む「スプラッシュ」にはならないまでも特大の先制弾だったが、意外にも大谷はオラクル・パークでのホームランはこれが初めてで記念すべき初打ち。

これで本塁打リーグタイ

記録だが、誰も驚かないことに筆者はとて驚く。

打撃九部門の成績もモンスター級

今シーズンは指名打者として打撃に専念している最近の大谷選手の成績は、左下にあるように、両リーグTOP、TOPタイ、リーグTOP、TOPタイと、比べる対象がどんどんなくなってきた。

この日も本塁打を含む三本のヒット。あと、三塁打があればサイクルヒットになるところだった。でも、サイクルヒットになったとしてもだれも驚かないだろう。

相手チームの監督も投手もどう受け止めているのだろうか？

# 大谷翔平選手の打撃9部門の成績

(日本時間 2024年5月15日14:22時点) \*当新聞編集

No.	部門	成績	ランキング
1	ホームラン	12本	ナ・リーグホームラン王争いでブレーブス・オズナに並んでトップタイ
2	打率	0.361	単独トップ
3	安打	61本	単独トップ
4	二塁打	16本	単独トップタイ
5	OPS	1.107	単独トップ * OPSとは、出塁率+長打率
6	長打	29本	リーグ単独トップ
7	長打率	0.680	リーグ単独トップ
8	塁打	115塁打	リーグ単独トップ
9	ISO	.320	リーグ単独トップ * 長打力を表す指標

う？ぜひ聞いてみたいもの。最近、大谷選手の同僚たちの受け止め方も漏れ伝わってくるが、きつとあきれ果てていることだろう。

いったい大谷選手はどこまで行くのだろうか？

とりあえずは三冠王を目指すのか？

また、この先、どこに向かって進んでいくのだろうか？

これからの明確な目標を探すとしたら、打撃部門の最

高は、「打率」、「打点」、「ホームラン」の三冠王くらいしか思いつかないが、それを狙うのだろうか？

幸いなことに、今シーズンは、現時点では打率も、ホームラン数も好調だし、残るは打点ということになるが、これも、引き続き打撃が好調ならばけっして無理な目標でもない。

ならば、そこなのか？

来季、投手部門で復活したら、どうなるのか？

ありえないことではないが、何だかマンガの世界に迷い込んだ気がしてくる筆者なのである。

昨シーズンは、腕の手術があり、今シーズンの当番はない。

しかし、もしも今シーズンで「三冠王」を奪取したとすれば、来年の大谷選手を紹介するときには、「昨シーズンの三冠王で MVP のピッチャーで指名打者」ということになるのだろうか？

# 新シリーズ【東北を再発見する旅】…⑧ 大湯環状列石と黒マンタ 「どーもくん」が思い出させる絶対忘れられない秋田の縄文遺跡



大湯ストーンサークル館の「土版」画像  
(筆者撮影)



どーもくん画像・・・  
「どーもくん MUSIUM」より

NHK「どーもくん」を見ると思い出させる縄文遺跡  
筆者の悪い癖でもあるが、TVのチャンネルを順番に次々に変えていく過程で、たまにNHKの幼児番組がTV画面に出るときがあり、さらにそこに「どーもくん」という人気キャラクターが出現するときがあるが、そのときに決まって思い出させる縄文遺跡がある。

それが、秋田県北部の鹿角市にある「大湯環状列石」という縄文遺跡である。はじめてそこを訪問したのはいまから約十年前前で、その一回だけでもかかわらず、そこを思い出さずにはいられない。とても鮮明な記憶として蘇ってくる。国内の「環状列石」といえば一番有名なのが、ここ大湯環状列石であるが、筆者にとってはそれよりも、当

上記の「土版」は縄文計算器という説があるけど、そうかな？

口の部分を「1」とし、「眼」の部分を「2」とすると、下の段に、左に「3」があり、右に「4」があり、真ん中のタテのラインが「5」とあるとしたら、「1」から「5」までの計算器か、あるいはサイコロかな？

以下は、「どーもくん」の説明(NHK「どーもくん MUSIUM」より)

タマゴから生まれたへんてこ動物。もっさいボディとピュアなハートの持ち主。テレビが大好き。空想にふけりがちなぼんやりやさんで結果、よからぬ事になる場合も多い。機嫌をそこねると、キョーレツなおならをする。  
身長：120cm 体重：85kg

紙面に掲載した写真にある「土版」がこの遺跡を代表していると思えるのだ。なぜかといえば、NHKの「どーもくん」というゆるキャラが、その「土版」とそっくりだからである。これほど似ているには何らかの理由があるのだろうが、ここではこれ以上詮索するのは止める。並べた写真を見比べていただければ自然に分かるだろう。

「どーもくん」にそっくり「土版」は、ひよつとして縄文人は計算器を使っていた？



日時計ならぬ「シンボル」列石①— 筆者撮影



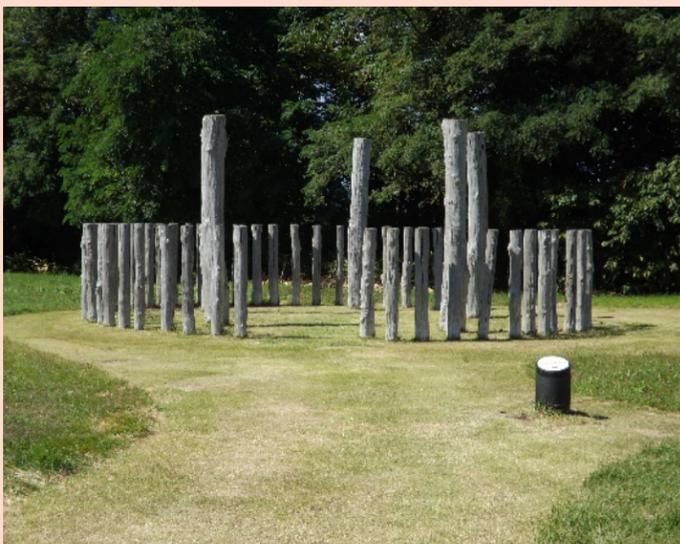
日時計ならぬ「シンボル」列石②— 筆者撮影

「計算器」ではないかという説が以前からあった。「土版」の写真をよく見ると、たしかに、「1」から「5」が並んでいるようにも見える。(写真説明参照) あるいは一種のサイコロ

のようなものかもしれない。もし、いずれかの説が正しいとすれば、「大湯環状列石」がいまから約四千年前の縄文遺跡であることからすると、その時代は遊び感覚あふれる楽しい時代だったのかも知れない。



掘っ立て小屋と環状列石— 筆者撮影



木柱群— 筆者撮影

「環状列石」は「日時計」ではない  
「土版」の次に取り上げるのは、一般的にこの遺跡のメインと言われる「環状列石」である。別名、「ストーンサークル」とも呼ばれている。これは何のために作られたのかについても、以前からさまざまな説が飛び交っている。

「日時計説」である。筆者としては、この説には賛同しかねるとずっと思っていた。

太陽の一日の動きを知るのに、なんでこんな大掛かりな「環状列石」を作らなければならぬのが納得できなかつた。大変な労力と時間をかけて作り上げるには、それに見合う動機が必要だと思つたからである。

だから「日時計」とは思えなかつたのである。それはともかく、奇しくも、筆者と同意見の持ち主に、その遺跡で出会うことになつたのだ。

「大湯環状列石」を訪問したときに、初めてということもあり、ボランティアの説明員を頼めると入口に書いてあつたので、頼んだ。その説明員の方が、「大湯環状列石」を目の前にした途端に、「これは日時計などではない。セックスシンボルだ！」と突然告げたので、同意見であつた筆者も突然の意見表明に驚いた。

### 「環状列石」は墓であり生命再生祈願の場か？

筆者も、この訪問以来「環状列石」はどんな目的で作られたかを、素人ながら長い間考えてきた。さまざまな研究書もめくつてみた。

そこで、現時点では、「環状列石」とは、人を埋葬した墓であり、「死」という「あゝ世への送りの儀式」の場

あり、同時に生命再生を祈願する場だつたのではないかと考えている。

また、そうした儀式を開催するのは一年の特定の日であり、近隣の集落から多くの人が集まつたはずだ。

現代で言えば「祭り」のよなものであり、「祀り(まつり)」と言つた方がよいかもしれない盛大な儀式だつたと思われる。

多くの研究者によれば、夏至の日、この遺跡にあるふたつの環状列石の中心の石を結んだ延長線上に夕日が沈むと言われているので、夏至の日「祀り」が行われていたのかもしれない。

### 「クロマンタ」に登る

「大湯環状列石」に行つたならば、ぜひすぐ近くにある「クロマンタ」という小山に登つてみるのをおすすめする。

通称「クロマンタ」とは、鹿角市大湯の高山にそびえる小さな三角の山である。「大湯環状列石」遺跡から二キロほどの距離にある。

その綺麗な三角のかたちのために、昔から「日本最古のピラミッド」などとも言われている。

正式名称は黒又山(くろまたやま)だが、地元では昔から「クロマンタ」と呼ばれている。

頂上には、本宮神社も祀られている。筆者も、そのときの訪問の際に登つた。雨上がりで登り道が多少ぬかるんでい

たが、せっかくここまで来たし、さまざまな伝説を抱えた「クロマンタ」に登らなくとも帰ることなどできるものかと思つた。

登り口を少し進んだら、聞いたことがない、とてつもない獣のような大きな雄たけびが、三度筆者の頭上に降りかかつてきた。

その森に住むムササビの威嚇の声かと思つたが、後に動物の鳴き声図鑑で調べたら、ムササビはそんな大きな鳴き声ではなかつたので、別の動物だつたようだ。

いまでもその正体ははっきり分らないナゾのままだ。縄文末期のストーンサークルの意味

### 北日本を中心に、いくつかの「環状列石」、すなわち「ストーンサークル」があるし、実は、世界中に「ストーンサークル」は存在する。

それもほぼ同じような時代に作られたものである。いまから四千年前の前後の時代のことである。

その時代に、地球はミニ寒冷期を迎えたようだ。太陽の活動が弱り、地球が冷えたのだ。

地球が冷えれば気温が下がり、植生も変化し、食糧としていた植物や動物も変化していったにちがいない。

つまり、それまでの食糧が減少して、飢餓リスクに直面したということだ。

そこで、当時の世界中の人間たちは、太陽活動の再活発化と温暖化を願つて、

建造物や構築物をあちこちで建設した。イギリスのストーンヘンジも同様の目的をもって、同じ時期に建造されたと言われている。

### 蛇信仰とクロマンタ

また、このクロマンタに

列石」のある地域の周りでも、ミニ寒冷化が発生して、飢餓リスクに直面したことだろう。

は、日本列島で大昔に信仰されたであろう蛇信仰との関連もあるのではないかと、蛇は古代人にとっては、何度でも脱皮を繰り返して、永遠に生きるものとしてあがめられた歴史を持つ。

その蛇がとぐるを巻いた形は三角形の立体である。その連想から、きれいな三角形をした山は、蛇信仰の聖地とされたと思われる。これは東北だけでなく、奈良の三輪山も同じく三角

形の山であり、やはり蛇にまつわる神話が残っている。

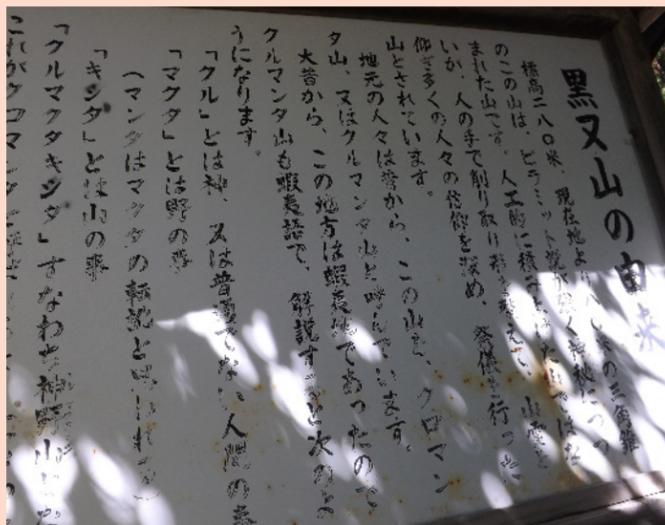
### 熊出現にご用心!

そうした伝説もあるクロマンタであるから、ぜひ興味ある方は一度は行つてみ

てはどうだろうか? とはいえ、この秋田北部でも最近クマ出没のニュースを耳にした。くれぐれも気を付けてお出かけを!



黒又山遠景一 筆者撮影



黒又山の由来看板一 筆者撮影



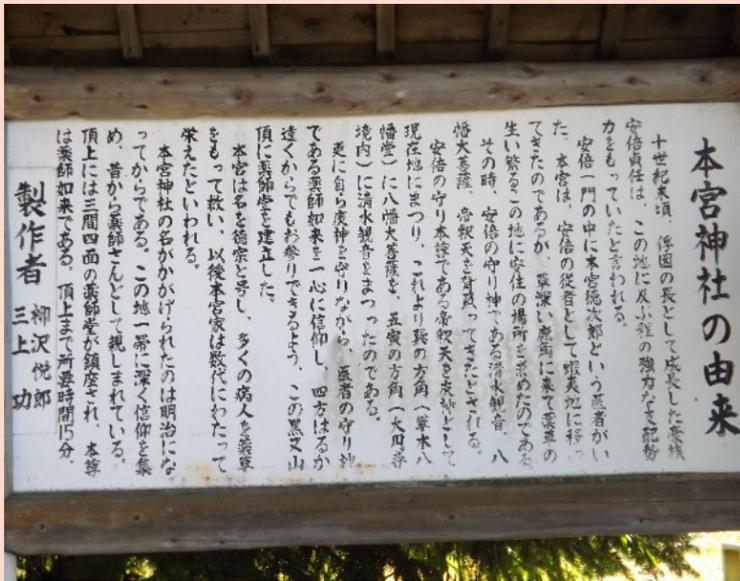
本宮神社本殿一 筆者撮影



坂道の参道一 筆者撮影



本宮神社入口の鳥居一 筆者撮影



本宮神社由来一 筆者撮影

# 全国との比較で東北のクラフトビールを見る

四月一六日発行の本紙第一四三号では、「東北のクラフトビールを東北の一大産業に」と訴えた。コロナ禍をくぐり抜けて東北のクラフトビール醸造所が引き続き増加傾向にあること、伝統の祭りにクラフトビールが出店するなど地域に定着しつつあること、クラフトビールのイベント数もコロナ禍以前に回復してきていること、そして何と云っても原材料であるホップのシエアが東北は断トツであること、などを挙げて、今まさに伸び盛りである東北のクラフトビールを、東北を代表する産業の一つに、東北の特色を表す特産品へと育てていきたい、と書いた。今回はその続きである。

## 人口一〇万人当たりで見ると

ゴールデンウィークの期間中、福島県田村市のクラフトビール醸造所「ホップジャパン」の直営店で、エスパルいわきにある「ホップ

### 執筆者紹介

大友浩平  
(おおともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブログ」  
http://blog.livedoor.jp/anagmas/



Facebook  
https://www.facebook.com/kouchi.ootomo

言えば東京都には九六ものクラフトビール醸造所があり、圧倒的に多い、ように見える。しかし、東京都は人口も多いので、それに比べてこの九六という数が多いのかどうかは判断が付きにくい。そこで、人口一〇万人当たり各都道府県にどれくらいのクラフトビール醸造所があるのかを算出してみたのである。

全国平均は現状では、人口一〇万人当たり一つに満たない〇・六五である。東北の五五も全国平均よりちよつとだけ上の〇・六六、東京都の九六も実は人口当たりで見ると〇・六八と、全国平均とあまり変わらないことが分かる。

しかし、都道府県ごとにみると、その多寡にかなり地域差があることが分かる。参考までに、ビール大国と言われるアメリカ、ドイツ、ベルギーの数値も入れてみた。ただし、直近のデータが見つからなかったため、それぞれ数年前のデータである。これを見ると今や世界一のクラフトビール大国であるアメリカは二・七四と、人口一〇万人当たり三

つ近くクラフトビール醸造所があることが分かる。伝統的なビール大国のドイツは一・五二、ベルギーはほぼ一の〇・九八であった。国内で人口一〇万人当たりのクラフトビール醸造所が最も多いのは山梨県で二・五一とアメリカに迫る数がある。次いで長野の一・

七五もドイツを上回る数である。東北に隣接する新潟も〇・九九とベルギーを上回っている。これら甲信越地方、鳥取県と島根県の山陰地方、それに沖縄県が我が国で特に人口当たりのクラフトビール醸造所が多い地域と言える。

## 目指すはドイツ、ベルギーの数字

東北では、人口一〇万人当たり一・二〇の岩手県が突出していてベルギーを上回り、ドイツに近づいている。他に、秋田県と山形県も全国平均を上回っている。一方、数としては一・三と、一四の岩手県に肉薄している宮城県は人口一〇万人当たりで見ると全国平均をかなり下回っている。福島県と青森県も同様である。このように、同じ東北でも、人口一〇万人当りで見ると多い県と少ない県があることが分かる。首都圏や関西圏にはクラフトビール醸造所

の数がかなり多い府県もあるが、それらも人口一〇万人当たりで見ると実は全国平均よりも多くないことが分かる。このデータを、前回書いた東北の一大産業に、という観点から見ると、全体として東北にはまだまだクラフトビール醸造所の数が足りないということが言える。特に宮城県、福島県、青森県はまず全国平均を上回ることが目標となる。山形県と秋田県についてはまずべ

ルギーの人口一〇万人当たり一を目指すがよいと思う。秋田県はあと二、山形県はあと三でその割合に達する。岩手県は東北全体を牽引するのに相応しい数と言える。岩手県はぜひドイツの人口一〇万人当たり一・五を目指してほしいと思う。あと四できればドイツを超える。

## 忘れてはならない横のつながり

数だけ増やしても、という意見もあるかもしれない。飲み手が増えなければ、限られたパイの取り合いになってしまう。ここで参照したのは日本酒の酒蔵の数である。東北六県の酒蔵の数は二二八で、人口一〇万人当たりすると二・七四でアメリカのクラフトビール醸造所の割合と全く同じである。東北六県に新潟を加えると三・〇四と、三を超える。もちろん、ビールの場合は大

手メーカーの存在もあるのだから、同列には論じられないが、ビール好きが日本酒好きよりも少ないとは考えられないので、クラフトビール醸造所がもつと増えてもそれで即共倒れになるとは言えないと考える。

もう一つ強調しておきたいのは横のつながりである。前回も強調したが、「競争」から「共創」へのシフトチェンジである。この点で奇しくも全国平均を上回っている東北の三県に共通して

いるのは、県内のクラフトビール醸造所同士でつくる団体があることである。それが別表の中に括弧書きで書いた団体であるが、岩手県には「岩手クラフトビールアソシエーション」、秋田県には「秋田県麦酒醸造技術研究会」、山形県には「山形県クラフトビール普及協会」がある。これらの団体が相互の情報交換や技術協力、ひたかたまりとなつてのPRなどに力を発揮している。

「秋田県麦酒醸造技術研究会」のサイトに印象深い言葉がある。「切磋する事の強さ。まとまる事の強さ」という言葉である。クラフトビール醸造所同士が横のつながりをつくる意義は、まさにこの言葉に尽きるのではないかと思う。全国平均を下回っている三県は他の三県をお手本に、まずは今あるクラフトビール醸造所同士で横のつながりを密にする取り組みを進めることが必要である。

都道府県ブルーワリー現状

都道府県名	人口(千人)	ブルーワリー数	人口10万人当たりブルーワリー数
全 国	124,352	813	0.65
ア メ リ カ	333,300	9118	2.74
山 梨 県	796	20	2.51
長 野 県	2,004	35	1.75
ド ー ツ	83,800	1274	1.52
鳥 取 県	537	8	1.49
島 根 県	650	9	1.38
沖 縄 県	1,468	19	1.29
岩 手 県	1,163	14	1.20 (岩手クラフトビールアソシエーション)
徳 島 県	695	8	1.15
新 潟 県	2,126	21	0.99
静 岡 県	3,555	35	0.98
ベ ル ギ ー	11,690	115	0.98
香 川 県	926	9	0.97
宮 崎 県	1,042	10	0.96
鹿 嶋 県	1,549	14	0.90
和 歌 山 県	892	8	0.90
山 陰 県	1,007	9	0.89
愛 媛 県	1,291	11	0.85
山 口 県	1,298	11	0.85
山 海 道	1,847	15	0.81
北 京 都	5,092	41	0.81
群 馬 県	2,535	20	0.79
秋 田 県	1,902	15	0.79
高 知 県	914	7	0.77 (秋田県麦酒醸造技術研究会)
新 潟 県	666	5	0.75
北 新 潟 県	10,444	76	0.73
滋 賀 県	1,407	10	0.71
奈 良 県	1,296	9	0.69
栃 木 県	1,897	13	0.69
山 形 県	1,026	7	0.68 (山形県クラフトビール普及協会)
福 井 県	14,086	96	0.68
東 北 北 道	744	5	0.67
東 北 北 道	8,318	55	0.66
大 分 県	2,738	18	0.66
大 分 県	1,096	7	0.64
大 分 県	9,229	54	0.59
大 分 県	2,264	13	0.57
大 分 県	1,727	9	0.52
大 分 県	1,931	10	0.52
大 分 県	1,767	9	0.51
大 分 県	1,184	6	0.51
大 分 県	795	4	0.50
大 分 県	5,370	26	0.48
大 分 県	2,825	13	0.46
大 分 県	1,109	5	0.45
大 分 県	6,257	27	0.43
大 分 県	5,103	21	0.41
大 分 県	1,709	7	0.41
大 分 県	7,331	29	0.40
大 分 県	8,763	30	0.34
大 分 県	7,477	22	0.29
大 分 県	1,267	3	0.24
東北六県酒蔵	8,318	228	2.74
東北+新潟酒蔵	10,444	318	3.04

# 奥羽越「国魚」いま登る！ 謎に煌めく北の航海者たちの事

先日、二〇〇一年に二十年後の二〇二〇年はこうなると予測したという映像を観る機会があった。「家庭用ロボット」が一家に一台レベルで普及しており、家族の健康管理や自動調理、外出時の忘れ物チェックまで行い、新聞は「電子ペーパー」、携帯電話はメガネ一体型となり（スマホは全く予知できなかつたようだが）、クルマは空を飛ぶのが当たり前、買い物はバーチャルリアリティ内にて、といちいち実際の現在と微妙に、あるいは盛大にズレた予想内容に、まず「たった二十年先の事も正確に当てられないのか・・・」という呆れ



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かって立ち読みを始めると東北好きである。

に近い驚きであったが、多くは確かに最早実現可能かも知れぬものの需要がないなどで敢えて導入していないであろう事柄であり、また「自宅勤務が可能になり出社は週に数日」としつかり当てている部分もあった。

しかしこれらの中で特に気になったのが、「天気予報」が「本日の天気の設定は・・・」と始まる、つまりは毎日の天気・気候を自由に操作・コントロールできるようにするということだ。う、と思うが何の根拠もない話でもあるまい。個人の生活から人類の歴史そのものまで大きな影響を与えてきたこれら自然現象を制御するということ発想は古くからあり、実際にも近年の北京五輪の際に上空からの「ヨウ化銀散布」による人工降雨が行われ、欧米でもハリケーンや落雷を回避する為の数々の実験が為されているとの事だ。とは言え、この現代に自然への影響に何の懸念もなく気候コントロールが実現する——と考える人はいないのではないか、とも思うが・・・同時に私は、それにも関連する事として、私が幼少期であった一九七〇年代前後盛んに為されてきた未来予測の中でも言及された記憶のない、肉より魚の方が高価にな

る」という一つの現実が思い浮かんだのである。本稿では、制御可能な人間の驕りを常に予想外に裏切ってきた、なにかんづく東北の自然を象徴するが如きある魚たちの生き様に焦点を当ててみたいと思う。

今や、トンカツ弁当よりも海苔シャケ弁当の方が高級感を覚える日常。私達の食卓には今尚様々な魚が上り、未だ食べられなくなつたような種類は無いように思えるが、昨今の全般的な留まることを知らない値上げ傾向の中でもひと際異なるのがイカやサンマの状況で、今や素朴そのものはずの福島名物・いかにんじん漬は最も高価な漬物の一つであるし、サンマの蒲焼缶詰は数年前の三倍の値段である。かつての安価な庶民の味覚に起きた異変はまさに海産版「下剋上」

とも思える状況だが、以前人工肉や昆虫食をテーマとした拙稿で綴つた「魚資源が減少し、食べられなくなるといふような単純な話でもないようなのである。ところで、国鳥や国花という概念は馴染み深いけれども「国魚」というのはあまり聞かず、実際国魚を指定している国も多くはない（メキシコはバツタを「国魚」に指定している）が日本の国魚が「錦鯉」である（日本錦鯉振興会による）と聞けばなるほどと誰もが納得するであろうと同時に

日本では地方毎に実に様々な魚貝と密接に生活しており、鯛や伊勢海老なども充分素質ありと異論も上がりそうである。実際、「県の魚」として地域の海や川の豊かさ・美しさを象徴する数々の魚貝類が制定されており、特に多彩な海産物に恵まれた宮城県などはカツオや鮎にカキ、ホヤなど指定が多いのだが、その東北のいくつもの県で指定されながら関東以西では一切名前の上からない魚もある。

岩手の「南部サケ」、山形の「サクラマス」、そして宮城の「銀鮭」として栄冠を誇るサケ目サケ科の魚たちである。鮭といえれば日本の握り飯や弁当に欠かせないイメージでまさに日本の魚の感があるが、同時に北海道そして東北を象徴する魚でもあると言える。

北方の海限定で獲れる魚と云うとニシンやサンマが思い浮かぶが、ニシンは既に遠い昔東北では青森県沖で既に不漁となり、明治・大正期のニシン御殿で有名な北海道でも戦後には漁が衰退、現在は多くが北欧、その後ロシアやカナダからの輸入となった。サンマに関しては実は日本近海の魚ではなく、ハワイ沖を中心とした太平洋中央に生息し産卵の為に回遊する一部が秋に日本近海を通るに過ぎない。近年の極端な不漁を中国による乱獲の為とするのは全くの誤りで、日本への来遊量の減少がその要因

であると東京海洋大学の研究者は語る。各国の過去二十年のサンマ総漁獲量に大きな差はなく、六〇年代は世界的な不漁、九〇年代には逆に豊漁が続いたのだが原因は特定されていない。つまりサンマには自然の豊漁期と不漁期があるのであり、メディアはわかつた上で視聴者のモヤモヤ解消の為、中国に非があるような報道を続けるのだという。

さて、一方の鮭であるが長い年月に渡り日本の弁当スタイルの基本とも言える海苔シャケ弁当は、元々鮭もまた安価な魚であった事鱈やサンマなどに比べても長時間保存状態が良く、魚臭さも少ない事などから定着したと言われ、サンマがその臆病な性格などから養殖に不向きな事もあり高値にならざるを得ないのに対し、現在世界各地で養殖が盛んな鮭類はやや高値化したつづつあるもまだまだ手頃な魚ではあると言える。

日本では古来より「年取り魚」として年末年始に東日本では鮭を、西日本では鰯を食べる文化がちょうど糸魚川静岡構造線を境に分かれて存在し、鮭が明確に北東方面の魚である事を証明している。元来自然生息域ではない南米チリにて日本の国際協力機構の支援により海面養殖に成功したニジマスやギンザケの例もあるが、本来は寄生虫の危険から避けられていた生食を

「先住権」も絡めてその是非を巡り議論されている。だが鮭の恩恵の南限とも言える東北も負けてはいない。東北と言いつても過言ではない下越村上地域では平安期の記録が残るほど古来からの鮭文化を有し江戸期村上藩にて自然ふ化増殖システムを、明治期には日本初の人工ふ化を実現したという当地には通年に渡り百種類以上の鮭料理が今も伝承されると言い、

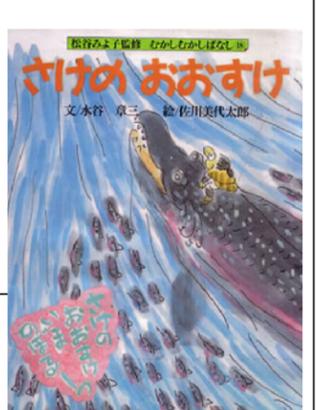
「三面川の鮭でなければ鮭とは言えない」と言い切る程の誇り高さなのである。そしてその北方、我が郷土である庄内の最上川流域も無鱈鮭漁では知られた所だが、注目すべきは「鮭の大助・小助」伝説とそれに準じた漁期の設定である。

実はこの「鮭の大助」の事を知つたのは赤坂憲雄による近年の『東北学』関連書籍からであり、地元の話ながら私は聞いた事がなかった。太平洋側も含め東北一円に伝わるという物語のパターンは大きく二通りある——一つは、飼っていた牛を鷲に攫われた男が、牛の皮を纏い鷲を待ち伏せていたところ逆に鷲に捕らえられ遠い島まで連れ去られるも、崖上の鷲の巣から脱出した男は下界で巨大な鮭に助けられ、その背に乗って故郷へ帰還し、今後は無闇な漁をせず、鮭に有利な掟を作り守っていくと約束す

る。中沢新一によれば、この物語の類型は南米にまで及ぶ環太平洋地域に、鮭を別の動物に変換して存在するとの事だが、もう一つのパターンとしては、「鮭の王」を意味する大助が川を遡上する際に轟かせる「鮭の大助、いま登る！」という叫び声を聞いた者は三日と生きられないと言い、彼ら眷属が通るとされる特定の一日を禁漁として、大助の声を聞かぬようどんちゃん騒ぎを繰り広げるといふ一種不気味な風習である。

この大助ら眷属とは捕獲された鮭の魂とも言われ、また鮭の産卵の邪魔をせず鮭資源を守る為の戒めでもあるとの説もある。かつての「蝦夷の国」の範囲一体にこのような共通の伝承があるという事自体不思議で興味深いところではある。

ところで、鮭もまた日本での漁獲量は芳しくなく、その原因を外国による乱獲か海水温上昇に求められがちだが、そのいずれでもない漁業ジャーナリスト・片野歩氏は言う。と言うのも、同じく鮭・イクラを漁獲するロシア・カナダ・米



絵本「さけのおおすけ」フレーベル館出版 1992年

だけが不漁なのであるが、実は各国における稚魚放流と自然産卵の比率が、その後の明暗を分けるらしい事がわかつてきた——何と河川へ回帰する鮭の半分以上が自然産卵によるものだというのだ。日本はどの国よりも各段に放流率が高いにもかかわらず、唯一来遊量が激減しており、ある川で採卵された卵から生まれた稚魚が別の川に放流されるような事でも遺伝子的な混乱が起きていく可能性もあると言ひ、自然産卵を見直し国内の資源回復を行う事が急務であると結ぶのである。

決して人間が完全に管理し操る事のできぬ、自然なるもの——その権化たる魚・鮭への理解を誤つた事が、日本という国の衰退の証左でもあるとすれば、彼らにその身に永遠に秘めるであろう謎、目の当たりにしてきた壮大なる北海の神秘を縄文の太古から丸ごと食し血肉にしてきた私たち東北人の手にこそ、その混沌の窮地からの解放の鍵が握られているのではないか——そんな無茶な未来予想が、できるような気もしてくるのである。



ハナモモと萌山



桃源郷



桜花ポケモントレイン2



芝桜とひなび



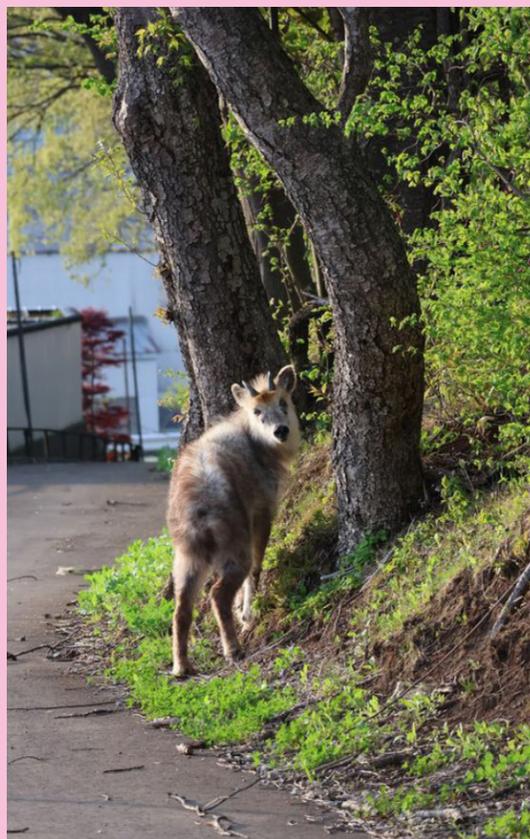
菜の花畑

## シリーズ 遠野の自然

### 「遠野の立夏」

遠野 1000 景より

暦の上ではもう「立夏」となった。  
まだ、ときどき肌寒い日もあるので、夏用の服装に完全に模様替えとはいかないが、半袖で過ごせる日が増えてきた。  
遠野では前号よりさらに花々が増えてきた。  
地中に蓄えていたエネルギーが花々という形をとって一挙に噴出してくるという印象だ。  
まことに、目にまぶしい色彩が乱舞している。  
その勢いにつられて、カモシカも民家近くに出没しているようだ。  
齢を重ねてくると、こうした自然の勢いに圧倒され、気圧されている自分にあらためて気づいてしまう。



振り向くニホンカモシカ



アカバナヒトリシズカ



アケビ雌雄花



# 写真でお伝えする 東北の風景

## 「雪が残る 八幡平」

写真撮影  
尾崎匠

